



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年8月4日

上場会社名 アイカ工業株式会社 上場取引所 東 名
 コード番号 4206 URL <https://www.aica.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 海老原 健治
 問合せ先責任者 (役職名) 財務統括部長 (氏名) 森 要輔 TEL 052-533-3135
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	59,765	5.1	6,324	4.4	7,175	6.0	4,471	8.1
2025年3月期第1四半期	56,842	4.3	6,059	15.9	6,766	20.6	4,134	14.7

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 127百万円 (△98.6%) 2025年3月期第1四半期 8,949百万円 (23.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第1四半期	71.52	66.02
2025年3月期第1四半期	64.63	60.00

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	278,395	183,723	60.3
2025年3月期	288,058	189,723	60.2

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 167,867百万円 2025年3月期 173,372百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	-	56.00	-	70.00	126.00
2026年3月期	-	-	-	-	-
2026年3月期(予想)	-	66.00	-	70.00	136.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	126,600	5.4	13,600	3.4	14,300	0.5	8,900	0.5	141.79
通期	265,000	6.6	29,000	5.8	30,000	4.6	18,300	8.3	291.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期1Q	67,590,664株	2025年3月期	67,590,664株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	5,318,664株	2025年3月期	4,822,848株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期1Q	62,518,746株	2025年3月期1Q	63,971,017株

（注）期末自己株式数には、株式給付信託（J-ESOP）が保有する当社株式（2026年3月期1Q 46,700株、2025年3月期46,900株）が含まれております。また、株式給付信託（J-ESOP）が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております（2026年3月期1Q 46,833株、2025年3月期1Q 47,033株）。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1.経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、日本国内においては、インバウンド需要の拡大や雇用・所得環境の改善を背景に、景気は回復基調にあるものの、物価高の影響から内需が力強さを欠き、緩やかなものに留まりました。アジア・オセアニア地域の経済につきましては、中国では不動産不況を背景に景気回復の足取りが鈍く、東南アジアにおいても一部で経済成長の鈍化がみられるなど、厳しい経済環境が続きました。また、原材料価格の高止まり、為替変動の影響、米国の関税政策の影響や地政学的リスクの高まりなどにより、国内外ともに先行きは不透明な状況です。

国内建設市場において、住宅市場では、改正建築基準法および改正建築物省エネ法の施行に伴う駆け込み需要の反動減により、住宅着工戸数は前年を下回りました。非住宅市場では、オフィスの需要が減少したものの、インバウンド需要の拡大によりホテルの需要が増加したため、着工床面積は前年を上回りました。

このような経営環境の下、当社グループは、中期経営計画「Value Creation 3000 & 300」の方針に基づき、収益性の改善、成長事業の創出・育成、健全な経営基盤の構築などを推進いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高59,765百万円（前年同四半期比5.1%増）、営業利益6,324百万円（同4.4%増）、経常利益7,175百万円（同6.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益4,471百万円（同8.1%増）となりました。

セグメントの業績については次のとおりであります。なお、セグメント間の内部売上は除いております。

（化成品セグメント）

接着剤系商品は、国内においては、合板用接着剤や梱包用のホットメルト、繊維・塗料用アクリルエマルジョンなどが好調に推移し、売上が前年を上回りました。海外においては、ベトナムなどが好調で売上を伸ばすことができましたが、中国における価格競争激化などにより利益は前年を下回りました。

建設樹脂系商品は、内装外装仕上げ塗材「ジョリパット」の販売が好調であり、外壁タイルの剥落防止工法「タフレジッククリアガード工法」がマンションの改修需要を獲得したことにより好調に推移しましたが、塗り床材「ジョリエース」や「アイカピュール」が前年の大型受注案件の反動減および工場の改修需要の一時的な減少により低調に推移した結果、売上が前年を下回りました。

非建設分野への取り組みとして注力している機能材料事業は、国内においては、電子材料用の高機能フィルム「ルミアート」が好調でしたが、化粧品用の有機微粒子が低調で、売上が前年をわずかに下回りました。海外においては、UV硬化型樹脂や熱可塑性ウレタン樹脂などが伸ばしましたが、為替の影響により、売上は前年をわずかに下回りました。

このような結果、売上高は33,036百万円（前年同四半期比3.5%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は2,100百万円（前年同四半期比1.3%減）となりました。

（建装建材セグメント）

メラミン化粧板は、非住宅市場の改修需要を獲得したことに加え、国内シェアNo.1のブランド力を活かした商品戦略により、売上を伸ばすことができました。海外においては、中国が不動産不況により低調に推移したことから、売上が前年を下回りました。

ボード・フィルム類は、汎用的なポリエステル化粧合板が苦戦しましたが、前期にラインナップを拡充した粘着剤付化粧フィルム「オルティノ」が好調に推移し、売上が前年をわずかに上回りました。

メラミン不燃化粧板「セラール」は、非住宅市場の改修需要を獲得するとともに高付加価値商品の採用が拡大し、売上が前年を上回りました。なかでも、高意匠メラミン不燃化粧板「セラール セレント」は高級感漂う意匠性を評価いただき、住宅ではキッチンから洗面空間、非住宅ではエントランスやトイレなどでの採用が増えています。また抗ウイルスメラミン不燃化粧板「セラールウイルテクトPlus」は抗ウイルスと消臭の機能が評価され、病院や店舗などの非住宅市場での需要を獲得しています。

不燃建材は、押出成形セメント板「メース」などが苦戦しましたが、アクリル樹脂系塗装けい酸カルシウム板「ルナライト」が店舗、工場、ホテルで好調に推移し、市場に従来存在しなかったサイズの採用も増加しており、売上が前年をわずかに上回りました。

住器建材は、造作風洗面化粧台「スマートサニタリー」が好調で、売上を伸ばすことができました。「スマートサニタリー」は、求めやすい価格帯で、オーダーメイドのような高い自由度と意匠性が好評を博しております。お施主さまのショールームへの来場が増加するなど、さらなる成長が期待できます。

このような結果、売上高は26,728百万円（前年同四半期比7.3%増）、営業利益（配賦不能営業費用控除前）は5,347百万円（前年同四半期比9.1%増）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は171,285百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,269百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が5,421百万円、有価証券が2,998百万円減少したことによるものであります。固定資産は107,110百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,392百万円減少いたしました。これは主に有形固定資産が2,010百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、278,395百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,662百万円減少いたしました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は60,709百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,065百万円減少いたしました。これは主に未払法人税等が1,559百万円、支払手形及び買掛金が1,088百万円減少したことによるものであります。固定負債は33,962百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,596百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が1,572百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、94,672百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,662百万円減少いたしました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は183,723百万円となり、前連結会計年度末に比べ6,000百万円減少いたしました。これは主に利益剰余金が74百万円（親会社株主に帰属する四半期純利益4,471百万円及び剰余金の配当4,397百万円）、自己株式が1,791百万円、その他有価証券評価差額金が857百万円増加したことに対し、為替換算調整勘定が4,676百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は60.3%（前連結会計年度末は60.2%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績は概ね計画通りに推移しており、2025年5月1日に公表した業績予想に変更はありません。今後の景気の動向によって第2四半期連結累計期間及び通期の業績見込みについては見直しが必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	59,573	54,152
受取手形	21,576	21,066
売掛金	50,741	49,040
有価証券	6,096	3,098
商品及び製品	17,293	18,851
仕掛品	1,979	2,250
原材料及び貯蔵品	14,613	13,808
その他	8,510	9,821
貸倒引当金	△830	△805
流動資産合計	179,554	171,285
固定資産		
有形固定資産	74,019	72,008
無形固定資産		
のれん	2,175	1,924
その他	8,218	7,743
無形固定資産合計	10,393	9,668
投資その他の資産		
その他	24,091	25,434
貸倒引当金	△1	△1
投資その他の資産合計	24,090	25,433
固定資産合計	108,503	107,110
資産合計	288,058	278,395
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	31,342	30,253
電子記録債務	3,813	3,996
短期借入金	6,252	6,342
未払法人税等	4,004	2,444
賞与引当金	2,556	3,127
有償支給取引に係る負債	2,331	2,485
その他	12,475	12,058
流動負債合計	62,775	60,709
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	18,036	18,031
長期借入金	3,919	2,346
退職給付に係る負債	2,080	1,921
その他	11,523	11,662
固定負債合計	35,559	33,962
負債合計	98,334	94,672
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,891	9,891
資本剰余金	7,177	7,177
利益剰余金	137,195	137,269
自己株式	△10,115	△11,906
株主資本合計	144,149	142,432
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,970	8,828
繰延ヘッジ損益	△5	△8
為替換算調整勘定	20,965	16,288
退職給付に係る調整累計額	292	326
その他の包括利益累計額合計	29,223	25,434
新株予約権	19	19
非支配株主持分	16,331	15,836
純資産合計	189,723	183,723
負債純資産合計	288,058	278,395

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）
売上高	56,842	59,765
売上原価	41,426	43,350
売上総利益	15,415	16,414
販売費及び一般管理費	9,355	10,090
営業利益	6,059	6,324
営業外収益		
受取利息	144	171
受取配当金	210	279
その他	573	629
営業外収益合計	928	1,080
営業外費用		
支払利息	64	69
為替差損	—	68
その他	157	91
営業外費用合計	221	229
経常利益	6,766	7,175
税金等調整前四半期純利益	6,766	7,175
法人税、住民税及び事業税	1,825	2,158
法人税等調整額	345	148
法人税等合計	2,171	2,307
四半期純利益	4,595	4,867
非支配株主に帰属する四半期純利益	461	396
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,134	4,471

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）
四半期純利益	4,595	4,867
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	438	857
繰延ヘッジ損益	△1	△2
為替換算調整勘定	3,878	△5,563
退職給付に係る調整額	27	33
持分法適用会社に対する持分相当額	10	△65
その他の包括利益合計	4,353	△4,740
四半期包括利益	8,949	127
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,868	682
非支配株主に係る四半期包括利益	1,081	△555

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

I 前第1四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	化成品	建装建材	計		
売上高					
外部顧客への売上高	31,925	24,917	56,842	—	56,842
セグメント間の内部売上高又は 振替高	963	1	964	△964	—
計	32,888	24,919	57,807	△964	56,842
セグメント利益	2,127	4,899	7,027	△967	6,059

(注) 1 セグメント利益の調整額△967百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△968百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門（人事、総務、経理部門等）に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	化成品	建装建材	計		
売上高					
外部顧客への売上高	33,036	26,728	59,765	—	59,765
セグメント間の内部売上高又は 振替高	1,059	0	1,059	△1,059	—
計	34,096	26,728	60,825	△1,059	59,765
セグメント利益	2,100	5,347	7,447	△1,123	6,324

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,123百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,135百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門（人事、総務、経理部門等）に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2025年5月1日開催の取締役会決議に基づき、自己株式495,900株の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が1,791百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が11,906百万円となっております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）
減価償却費	2,008百万円	2,000百万円
のれんの償却額	159百万円	152百万円